

# 令和3年度第1回丹波篠山市総合教育会議 議事録

## 1 日 時

令和3年11月25日（木） 19時00分～20時47分

## 2 場 所

丹波篠山市立四季の森生涯学習センター東館 第3会議室

## 3 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	丹後 政俊
教育委員	西田 正志
教育委員	垣内 敬造
教育委員	山本 恭子

## 4 事務局出席者

	部長	稲山 悟
	部長	小林 康弘
	次長	西羅 忠和
	次長	酒井 宏
教育総務課	課長	中野 悟
学校教育課	課長	岸田 幸雄
教育総務課	係長	田中 真紀子

## 5 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長

## 1 開会

令和3年度初めての総合教育会議を開催したところ、お忙しい中お集まりいただき、また平素から丹波篠山の教育にご活躍いただいていることに心から感謝申し上げます。

令和2年度は部活動の推進について、この会議を活用してできるだけ子どもたちの希望に添うかたちでできるよう部活動の推進をするということで協議し、本年度からその方向で進めているところである。

総合教育会議は、市長が招集し、市長が市民の立場で教育行政のなかに活かしていくということで作られた制度である。通常は教育大綱に基づいた協議をし、それによって教育委員会だけでなく、市民から選ばれた市長の声が教育に反映出来て、領域を越えて教育行政を行っていくということになっているわけであるが、今回招集をさせていただいたのは、「中高連携について」で、皆さんご承知のとおり、市内3高校への進学を高めるということである。特に篠山鳳鳴高校への進学率を高めるということである。篠山鳳鳴高校はこの春に大幅な定員割れをし、他の2高校も定員割れという大変衝撃的なことがあった。私としてもこれは何とかしなければいけないと思ったが、まず一次的に教育委員会に取り組んでいただくことだということで、新しく就任された丹後教育長のリーダーシップのもと、西羅教育次長が中高連携を担当し、今までできていない分野で取組を進めてもらっていると思っていた。

ところが、2か月程前に中学生進学希望調査の情報が新聞に掲載され、あまり改善されていないのではないかということ、そして来年度は三田市内高校普通科が80人定員が増となる話のなかで、このままではまた大幅な定員割れになるのではないかと心配になった。長期的なことはともかくとして、今日は中学生の進路希望が固まっていく12月初めに合わせて最後の最後までできることをする、来年度仮に定員割れをしたとしても、できるだけ最小限に食い止め、少なくとも今年のようなことにならないようにしなければ、今後の改善が難しくなるのではと思った。できるだけのことを教育委員会としても、市としても取り組みたいという気持ちで、慌ててこの会議を招集させていただいた。

11月21日発行の市広報紙に、資料5のとおり、表紙と、2頁～5頁に3高校の特色をできるだけまとめ、また卒業生の言葉も入れて掲載した。私も市内3高校を盛り上げようということで自分の意見を書かせていただいた。「同じ市内で生まれたり、育ったりした者が高校で友情を育み、切磋琢磨し合う、そして将来、同級生としてまたいろいろな形で支え合い、ふるさとを担っていくことは大切なことだと思います。」と、市長としての考えを書いた。これは市長だけでなく、丹波篠山市で教育に携わる方も市民も同じことではないかと私は思う。

	<p>「二極化する学校」という書籍が最近発行された。全部をきちんと読んでわけではないが、それによると選ばれる学校と選ばれない学校がある。新自由主義に導かれた現下の教育資質にメスを入れ、公教育のより良い未来のため新たな道を探る提言等が書かれている。</p> <p>自分が行きたい学校に行くと、それにより自分の個性が花開き自分の道が開けるといふふうに考えるのか、それとも地域の学校を、保護者・生徒・地域みんなで良い学校をつくっていくというように考えるのかという差ではないかと私は思う。少し未来を考えれば、やはり地域に良い高校があることは必要なわけである。そのためにみんながそれぞれの努力をしていくべきである。大きな志、何らかの特別の夢を持ち市外高校を選択されることは必要であろう。しかし、そうでない限りは地元高校に進学し、みんな地元の高校を盛り上げ、部活動が弱いのであれば自分が入部して頑張るぐらいの気概を持っていただきたいと思うが、今子どもたちにそれを言っても始まらない。正しく学校評価をしていただき、自分の力を発揮し、みんなでふるさとを盛り上げるための選択をしてもらおうと思う。この問題は市民の方の危機感も非常に強い。教育の最終目標は、地域を担っていく、作ることだと思っているので、教育に携わる方もそういった意識を持ってやってもらいたい。</p> <p>先々のことは別にして、この12月まで何をするか、そのことについて意見を出し合い、少なくとも来週中に市内高校が少しでも盛り上がるように、よろしくお願ひしたいと思う。</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>4.5年前、総合教育会議をこのテーマで開催したことがある。その時は、塾が偏差値がどうかで市外の高校進学を薦めているのではないかということを知ったので、総合教育会議に市内塾講師の方々に来ていただき話を伺ったこともあった。その時は、地元の方が経営されている塾の方は、地元高校をないがしろにするつもりはなく、むしろ地元高校を支えたいという考えであった。一定の理解を得たのかなと思ひ、以降このテーマは総合教育会議で取上げなかった。中高連携ということが言われていたので、教育委員会でそれなりの取組をしていただいていると思ひていたが、この春大幅な定員割れということで、今日は12月に向けてどうしたらいいかを協議をしたい。</p> <p>「中高連携について」は西羅次長が担当し、特に4月以降、取り組んでいるので、内容について説明を求める。</p>
西羅次長	<p>主に、レジュメ「丹波篠山市中高連携について」で説明する。</p> <p>市長から話もあつたように、この事業が始まったきっかけは市内中学生が市外高校への進学を希望する割合が増加傾向になり、その結果、市内高校において募集定員に満たない状況が生じた。この定員に満たない状況と、進学状況を表したものが資料1、「過去6年間における中学校卒業時の進</p>

学状況」である。1行目は3市公立（丹有）高校への進学者合計で、2行目はそのうち丹波篠山市内高校への進学人数の割合である。1番右列平成28年度63%だったものが、令和3年度は54.5%まで減っている。参考までに、平成23年度については、75.8%、4分の3が市内高校に進学していた。

資料2、これは市内3高校学校要覧から抜粋編集したものであるが、市内3高校の在校生に占める市内の中学校卒業生の割合である。上から篠山鳳鳴高校、篠山産業高校、篠山東雲高校の順である。篠山産業高校と篠山東雲高校は、大きな変化はない、篠山鳳鳴高校の減少が目立つ。1番下合計欄でも、上から3年生、2年生、1年生であるが、1年生の数字が164人で、前年度から32人減っており、その原因は篠山鳳鳴高校の普通科である。

資料3は、普通科についての9月希望調査結果である。この表の下段2022年度が、令和4年度入学入試についての進路希望調査である。高校は丹有地区の篠山鳳鳴、柏原、西陵、北摂三田、祥雲館で、左列から高校名、コース名、定員、前年度受験者と記載し、進学希望者数の水色欄がこの9月の希望者数である。柏原高校は募集定員を超えた志望者がいる。西陵高校も超えている。北摂三田高校は若干減少している。祥雲館高校は大幅に定員を超えている。篠山鳳鳴高校は、定員120人に対して62人が希望、定員の半分である。北摂三田高校と祥雲館高校は、本年度定員200人が、来年度はそれぞれ40人増え、定員240になるという状況であり、状況はさらに厳しいものになってくるというのは見てとれる。

レジュメに戻り、どういう事業を展開してきたかについて説明する。

「1 丹波篠山市中高連絡会での協議開始」は、この課題に対する共通認識、原因把握、対策を検討するために、「丹波篠山市中高連絡会」を設け、市内中学校・高校の校長、教育長、教育委員会職員で構成する意見交換会を開始した。課題共有と取組に対して何か工夫が出来ないものかと意見交換を行うものである。

第1回目は本年5月13日に開催した。課題の共有だけではなく、対応策についてもいろいろ提案をした。

提案内容が(1)である。主になぜ定員割れをしているのか、それも地元離れがあるのかという意見交換の中から、【高校への提案】は、もう少し魅力の発信に注力する必要がある。あるいは、中学2年生から進学先決定の活動が始まっているので、中学生に対する情報発信、あるいは働きかけるタイミングを大事にするという意見があった。【中学校ができること】は、地元高校に対する斡旋を行う。【市ができること】は、今回、市広報紙の話も出ているが、市としてできるPRということで、レジュメ2頁の1番上のおり、高校の魅力や優れた取組、在校生の満足度が十分に中学生や市民に周知できていないことから、短期的な対策として、令和3年年度においては7月下旬から8月上旬に実施するオープンハイスクールまでの働きかけが重要であることを確認し、速やかにできることからやっていくこと

とした。オープンハイスクールは、篠山鳳鳴高校が7月30日・31日、篠山産業高校は、8月4日・5日、篠山東雲高校は8月4日に開催された。

取組事項は、(2)協議の結果等から取り組んだこと(上半期)のとおりである。各高校においても、学校紹介ビデオを作成しPRされたり、現在調整中であるが駅にポスターを貼るような予定をされている。

今回初めて行ったのが、②高校の中学校訪問である。6月28日から7月の2日まで、市内全5中学校へ各高校の教頭先生・教育長・私が訪問して、中学3年生を対象に、学校紹介を行うとともにオープンハイスクールへの参加を呼び掛けた。

資料4は、教育長が各中学校3年生保護者に呼びかけた文書である。本当は保護者への呼びかけをしたかったが、コロナ禍で対応が大変な時であったので対象は中学校3年生とし、保護者の方には動画配信で説明を見ていただくことにした。そのときの様子が資料の5頁である。趣旨説明をする教育長の写真と、学校紹介中の篠山鳳鳴高校教頭の写真である。この説明会の様子を編集し、YouTube 配信をしたのが下段の写真である。高校紹介の動画には、中学校校長から、「高校生メッセージは、訪問中学校の卒業生からだと言得力があり、わかりやすい。」というアドバイスを受け、それを盛り込んだ紹介動画となっている。この中学校訪問を受けた中学生の反応がレジュメ四角で囲んでいる部分で、説明がわかりやすくよかった、熱意が伝わっている、とかなり評価が良かった。結果、オープンハイスクールへ向かう生徒が増えた。成果として上がったかなと思っていたが、それはそこまでの、希望調査を見るとまだ志望者まで影響を与えるところまでにはならなかった。

③市の取り組みである。市広報紙丹波篠山の8月号・12月号で特集記事を、7月・8月・12月号では表紙に市内3高校生の写真を掲載した。内容は、資料5以降である。特集記事は、刷り増しをして中学校3年生に届けた。以上のPR活動を行った。

「2 市による高等学校支援」は、どういった事業を展開したらいいかについても連絡会等での調整結果のうえ進めたもので、予算措置は9月の補正予算対応となった。主な内容については、(1)市内高校の独自活動の支援ということで、魅力の発信とか、魅力をもっと作ることが大事であるということから、魅力アップにつながる活動で高校が独自の活動をしやすくするために、各校に30万円を交付することとした。

また、(2)であるが、有識者等への協力依頼ということで、課題に対するアドバイスが必要になったときに、それぞれに通じた専門家に協力を求めるということで、高校がPRが上手な専門家からアドバイスを受けたり、11月26日、「10年間の地元高校の話題の変化」をテーマに市民の声を聞く内容の講演会を予定している。(3)教育アドバイザー依頼、これは丹波篠山市出身で、2020年8月まで文部科学審議官をされていた山脇良雄さんに教

酒井市長  
丹後教育長

育アドバイザーを依頼することにした。

「3 調整を進めている支援策」は、令和4年度の生徒募集が始まっていることから、課題とされているものについて、対応可能な支援については速やかに検討あるいは実施する。また、高校ごとにそれぞれ置かれている環境が違う。先ほど申し上げたように、篠山産業高校と篠山東雲高校はそれほど変希望者数が変わっておらず、今回篠山東雲高校は応募が増えつつある。篠山産業高校も就職等の実績が上がってきており、同じような対応をするのはなかなか難しいことから、高校に応じた支援の在り方を併せて考えていく必要があるかと思っている。

(1)市単独で行う支援策検討で、地元に進学しにくい課題の一つとして立地条件がある。それに対して通学支援が必要と判断し、現在、路線バスルートの見直しなど、市内各地区から通学しやすい環境づくりについての協議、検討を進めている。②高校の魅力づくりの支援は、本年度9月補正予算で行った。魅力づくりや情報発信といった高校の良いところを知ってもらう事業について、来年度も継続するかたちで支援ができないかと考えている。

(2)個別の対応を検討は、高校によって状況が異なることから、現状に応じた対応を検討するというので、令和3年度10月から、定員割れが増加傾向にある篠山鳳鳴高校への対応を実施している。具体的には、令和4年の進学希望調査においても厳しい状況であったということから、篠山鳳鳴高校を対象に現状の原因や対応から検討するため、教育アドバイザーの山脇良雄さんに中学校・高校・市・市教委等の関係機関にヒアリングいただき、意見交換をしてそれに基づく検討をする。その検討の対応の一つが、通学支援の在り方というものになった。

以上で、現状と今取り組んでいる課題についての説明となる。

中学校訪問では、こういう話を教育長がしたのか。

各中学校で、なぜこの会をするのかという話を中心に話をさせてもらった。どこの高校を選ぶのかは、基本的には君たち中学生が保護者や先生と相談して決めるが、丹波篠山市にはとても魅力ある高校があるので、その魅力を知ってほしい。市長が言われたとおり、同じ時に生まれ、高校まで一緒になってしっかり学ぶということは良いし、大事なことであるのでそのあたりも踏まえて考えてほしいと伝えた。最終的には自分で決めることであるが、一度市内高校に見学に行ってくださいという話をした。結果オープンハイスクールの参加者は増加したので手応えはあった。オープンハイスクールの見学も行ったが、どの学校も素晴らしく、特に篠山鳳鳴高校が良かった。私も高校現場に長く勤務していたが、学校説明をあれほどうまく話す高校生を初めて見たぐらいの良い説明であった。今年のオープンハイスクールは違ったと感じ良い感触を持っていたが、9月の進学希望調査結果で志望者が少なかった。総合科学コースは希望者36人で少しは増え

酒井市長	た。
丹後教育長	いろいろな方法で積み重ねて取り組まなければいけないと思っている。定例教育委員会の中では特にこの問題は協議をしてこなかったのか。
酒井市長	会議の中では今こういう運動をしているという話は伝えているが、これをテーマに協議をしたということはない。
丹後教育長	失礼なことを言うが、教育長らしくもうちょっとリードするような言い方をしても良いのではないかと私は思う。資料4の教育長発出文書で、「できれば子どもたちには高校卒業まではふるさと丹波篠山で学んでほしいと考えていますが、市内中学生は何が何でも市内高校へ等と言うつもりはありません。」私は押し付けてるんじゃないとわざわざ書いたことで趣旨が全部飛んでしまうような、そんな個人的な感想を持つ。市内高校を正しく知ってもらい、市内高校にはこんな魅力がある、そういうことを伝えてほしい。教育長がぐいっと引っ張っていくことは構わないと思う。
酒井市長	今市長が言われたような説得力、もう少し市内高校へ行くことを薦めることがあってもいいかなと思うが、私の中の基本には、最終的には進学先は子どもたちが選ぶということを自分の信念として思っている。ただ、市長が冒頭に言われたように、特別この部活をしたいなどということがなければ、みんなで地域を盛り上げていこうという思いはある。
丹後教育長	何が何でもみんな市内高校を選ぶべきというのはおかしいと思う。ただ市内高校が過小評価されているのではないか。篠山鳳鳴高校へ行った生徒が落ち込んだ毎日を過ごしているわけではなく、元気で楽しい学校生活を送っている。そういうプラス面を強調して伝えていけばよいと思う。
酒井市長	その話はずっとしてきている。
西羅次長	通学支援については、今この程度なのか。これはもう決めてしまおう。こういうものはもっと早く、こういう支援をするという発信をしないと、中学生が進学先を決めてから伝えても遅い。
酒井市長	神姫グリーンバスに来ていただき、創造都市課も協議に入ってもらい協議中である。ダイヤ改正や保有車両の関係があつたりで、現在調査のために1回持って帰ってもらってできる方法を考えてもらっている。日は未定であるが12月初旬には返事はいただけると聞いている。
西羅次長	塾関係者や中学校の先生方と連携をとって、中学生が進学先を最終決定する時に、東部地区はこういう通学支援をすると示さなければいけない。進学先が決まってからこんな支援をしますと言っても手遅れだ。
酒井市長	11月21日発行の市広報紙に通学バス支援のことを強く書けなかったの
西羅次長	ので、各高校、特に篠山鳳鳴高校が配布するチラシの中には、市が通学バスなりの支援を考えているということを記載して配布するとは聞いている。
酒井市長	今市としてこういう支援をしますと言えないのは市の責任である。
西羅次長	できるだけ早いこと返事をいただけるように伝えている。この話が出てから今最速で神姫グリーンバスに話をし、会社に持ち帰ってもらっている。

<p>酒井市長 西羅次長</p>	<p>協議のなかで、18時帰宅のバスを設定できないかという話でしたが、そう なると市で車両を購入してほしいという話も出た。よって今あるバス路線 で工夫ができないかということで、組織で考えていただきたく持ち帰って もらっている。</p> <p>提案しているのはどういう通学支援なのか。</p> <p>決定したわけではないが、例えば、今田地区なら市原から通常の路線バ スで通学してもらおうということを考えたり、村雲・福住・大芋は、篠山東 中学校までの通学バスを延長する。後川も同様に、草山も路線バスを基本 に西紀管内を通過して篠山鳳鳴高校や篠山産業高校へいくルートである。新 しく便をつくるのではなく、今の路線バスの時間をやりくりして、篠山鳳 鳴高校の始業時間に間に合うように通学してもらおう。</p>
<p>酒井市長 西羅次長</p>	<p>帰りのバスはどうなるのか。</p> <p>クラブ活動をしたい生徒が18:00や18:30発のバスで帰宅できるよう依 頼している。しかし、バス会社も車両の保有台数、バス運転手の人数もギ リギリのところなので厳しい状態だと言われている。1回持ち帰 って調整をさせていただいている。</p>
<p>酒井市長 酒井次長 酒井市長</p>	<p>中学生が担任と話をし進学先を決定する話し合いはいつ頃か。</p> <p>12月10日前後に三者懇談が設定されている。</p> <p>それまでには、通学支援を、確定でなくても出さなければいけない。こ れは市の方の責任である。通学支援を提案できるように、中学校に提示で きるようにしていく。</p>
<p>酒井次長</p>	<p>三者面談は、篠山中学校は、12月10日から4日間、今田中学校は、12 月10日、13日から15日と4日間にわたり行う。市内中学校、大体日程は 合わせて実施している。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>協議会で検討いただいた通学支援は、これでいいかどうかということは 最終市の判断になるが、まずは検討していただかないとこちら側も判断も できない。通学のことで進学先を選択している方があれば、食い止 める一つの方法なので、それは市としてもしていかなければいけないこと だと思う。西羅次長は創造都市課と協議を詰めていくように。バス会社と の協議には私も行ってよい。通学支援についての具体策は今ないので、 教育委員会事務局で創造都市課と協議し、早急に市方針を決めて、中学校 なり保護者への提案するように。</p> <p>それから西羅次長が、中学校の進路指導の先生や担任、塾関係者など、 子どもたち進路指導に影響があるかと直接お話をさせてもらっているの で、その内容の報告をお願いします。</p>
<p>西羅次長</p>	<p>中学校校長は、中高連絡会で協議をするので理解をいただいている。今 も時々電話があり、「こんな状態ではこうしたほうがいいんじゃないか。」 というアドバイスももらう。中学校の進路指導の先生には、なぜ、篠山鳳 鳴高校を選ばないかという話もしてもらった。9月に県が実施した進路希</p>



	<p>望調査の際アンケートがある。以前から篠山から三田市内高校へ進学している生徒は一定数いたが、近年増えているのが柏原高校への流出である。2年前は約40人、1クラス分も柏原高校に進学した。今年は20数人で、その理由としてアンケートや聴きとりからは、クラブ活動が柏原高校のほうが充実しているという話だった。今は情報がすぐ携帯電話で届く時代なので、横の繋がりがあり、そういう話があるとすぐ固まって進学先を決める。具体的にはサッカー部である。篠山鳳鳴高校は、教師の数が少なく大変ということで、クラブ活動はちょっとできにくい実態がある。三田方面への進学は、南に対する憧れみたいなことがあったり、チャレンジしたいという思いで、三田や宝塚の高校へ行く。クラブ活動を頑張りたいという生徒に、篠山鳳鳴高校のクラブ活動の状況を見て、生徒のその思いを曲げてまで篠山鳳鳴高校に行きなさいとは言いにくい。篠山鳳鳴高校には、学校としての魅力、セールスポイントをもっと明確にしてもらったら推しやすい。正直篠山鳳鳴高校の何が売りなのかがわかりにくいと、これは全中学校で言われたことである。そういう意味で我々市は情報発信について支援させていただいている。求める情報を発信できていないということ、それから、職員の構造上難しい部活動の指導の様子で進学先を選んでもというのが実態である。中学校側からこの高校に進学するようにや、あちらの高校に進学するようにという振り分けは全然していない。進路は、子どもが家で保護者と相談をし、その結果をもって学校に持ってきて担任と決定する。</p> <p>市内で長く塾を経営されているAさんに来庁いただき話をお聞きした。Aさんは地元で塾経営をされているので、地元高校をととても大事にされている。また市内で塾を経営されているもう一人Bさんには11月26日にお会いする予定である。Bさんも篠山鳳鳴高校生徒を教えられている。篠山口駅近くの塾は、北摂三田高校等への進学実績をポイントにされるような傾向があるという話を聞いた。Aさんは、篠山鳳鳴高校の総合科学コースの生徒を塾に招いて、現役の中学生に対してこんな立派な先輩が篠山鳳鳴高校にいるというような紹介をされたり、篠山鳳鳴高校でこういう勉強をしたらこんな卒業後の進路があるんだということをアピールするような機会も設けられている。だから地元の塾は、何年か前の状況と変わっていない。</p>
酒井市長	<p>篠山鳳鳴高校には、授業も学校生活の楽しさについて、中学生に対してPRしてもらう必要がある。何らかの措置はしていただいとると思うんですけども、まだ中学生には伝わっていない。</p>
西羅次長 丹後教育長	<p>伝わっていないのか、伝えられていないのか。</p> <p>なかなか簡単ではない。特に先輩から聞く情報で進学先を決定するというのが強いので、私が中学校訪問をして1回話したぐらいではわからない。</p>
酒井市長	<p>何か感想でもいいので発言を。申し訳ないが、教育委員会で協議ができ</p>

	<p>ていないから、通学支援すらアイデアができていない。今、県が高校改革をしている。今の高校に対するヒアリングでは、私も教育長も市内3高校は丹波篠山市にとって必要だと言っている。しかし、こういう状況がずっと続くと、結果が伴っていないと思われる。できるだけ地域の伝統的な学校を大事にしたいと県は言われていたが、知事も代わりどうなるかわからない。やはり地域の盛り上がりや、地域の高校に対する思いがないといけない。今後少子化も進でいく。篠山東雲高校は40人定員のところ25人ぐらいの生徒が通っているが、これもなかなか厳しいものがあり、福住の皆さんを中心に、もっと広範囲から生徒が通えるように、通学支援や寮や社会人の農業教育であるとか、来年度は篠山東雲高校を今後どうしていったらいいかという検討会を設けてやっていこうとしている。しかしよく考えると、篠山東雲高校に限らず、篠山鳳鳴高校、篠山産業高校も合わせてやらなければいけないのではないかというように思っている。</p> <p>篠山鳳鳴高校も、一部の先生方の責任もあると思う。自分が勤務する学校を魅力ある学校にして、子どもたちに選んでもらえるような学校づくりをするというのは、みんなの責任だと思う。私は知らないというのではいけない。学校挙げての取組が必要なんではないかということ、この間、山脇さんも言われたところであるが、これを今から篠山鳳鳴高校に言っても即座にできることではない。しかし子どもたちはサッカー部というような限られた情報で高校を選んでしまっている。</p>
丹後教育長	<p>この春、篠山鳳鳴高校の入学者が極端に少なくなったのは、中学校卒業生が少なかった。資料1の1番下の卒業生数合計だが、360、370人いた卒業生が、令和2年度は359人が、令和3年度は303人で極端に少なかった。これからまた320、330人と続くので、丹波篠山市内の高校を選ぶ市内中学生の割合を増やしていく。かつて67.1%、80%ぐらいまであったときもあったので、割合が増えれば定員割れは防げる。割合も資料1にあるがそこまで悪くない。この春も54.5%で突出して悪かったわけではなく全体の人数が少なかったら定員割れが大きかったと思うが、ここ数年魅力発信が弱かったということはあると思う。</p>
酒井市長	<p>平成30年度までは60%を超えていた。</p> <p>市内高校のクラス数を減らさないという署名活動について、PTAは今もしているのか。</p>
丹後教育長 酒井市長 小林部長	<p>している。</p> <p>市内の子どもたちが市内高校に行けるようにという署名であったか。</p> <p>今はクラス数を減らさないというより、適正な規模を維持してください、そういう言い方になっている。</p>
酒井市長	<p>ということは、その署名は裏を返せば、市内の子どもたちが市内高校に進学できるようにしてほしいという意味である。市内高校のことをPTAの皆さんはどこまで理解をされているのだろうか。</p>

垣内委員	<p>私は、教育委員も責任はあると思う。12月10日までに何をすればいいか。篠山鳳鳴高校も徐々に生まれ変わっていくと期待もしている。</p> <p>12月10日までにということができることは限られてくると思う。また、そういう具体的なアイデアを出す場かなということも思う。感想として、高校運営に関しては市は裁量がなく、そこにどうやって市の意見を伝えるのかというのは難しいとずっと思っている。西羅次長からの報告で事務局のほうも頑張っているし、教育長の中学校訪問も成果があったと聞いているので、それはよくやっていると思っているが、それが子どもたちに伝わっていない段階だと思っている。高校とか県の裁量のなかで、市がどうやって支援できるかと考えた時に、独自活動への支援金を交付するという活動報告があったが、交付の目的を具体的に示して交付するということが一番伝えやすいと思う。具体的には広報だと思うので、明確に広報してもらうことに対して支援をするという言い方でお願いするのはいいと思う。</p>
酒井市長	<p>今年度は既に交付している。この秋に各学校30万円を交付し、これは広報等に対して交付すると伝えている。またこれを来年度以降も継続していきたいと考えている。</p>
垣内委員	<p>市広報紙でというのは市として協力できることかなと思う。ただ中学生という対象に対して、市の広報紙が目が届くかということもあるので、市がどこまで関われるのか難しいところもあるが、例えば中学生がよく見るSNSとか、対象者がよく見ているメディアで広報するのはどうか。</p>
西羅次長	<p>中学生には、市広報紙のこの「高校特集」の部分だけを別に配布する。</p>
酒井市長	<p>SNSで発信していく方法はあるのか。</p>
西羅次長	<p>ある。高校も、その部分の情報発信が他と比べて遅れていると言われており、今始まったところである。またそのSNSでいかに情報が伝わるかということも大事である。</p>
酒井市長	<p>それは12月10日までにできるのか。</p>
西羅次長	<p>丹波篠山市のLINEで発信したら中学生が見てくれる可能性はある。</p>
酒井次長	<p>どれだけ登録されているのかというのがあるが、保護者には見ていただけける。</p>
酒井市長	<p>では、市LINEはすぐに対応するように。</p>
西羅次長	<p>LINEは対応する。</p>
酒井市長	<p>とにかくこの市広報紙を見てもらうようLINEを活用する。</p>
西羅次長	<p>今までも市のHPで3高校の動画が観られるようにしているので今、LINEでそれらを紹介する。</p>
酒井市長	<p>中学生はLINEを見るのか。</p>
酒井次長	<p>転送されたら観ると思う。</p>
山本委員	<p>鳳鳴高校はFacebookも始められたので、それを市のホームページとリンクさせるだけで、簡単に観ることができる。市が中高連携について取り組みを開始した時から、自分の周りの子どもたちに、進学について考え</p>

<p>酒井市長 山本委員 酒井市長 西羅次長</p>	<p>を聞いたりしている。多紀在住のある中学生は「市内の高校は通学の便が悪いので三田市の高校にするか迷っている。」と言われ、その他は市外の高校を選ぶ理由としては兄弟や周りが通ってるので、とのことであった。</p> <p>あと、新たな人間関係をつくりたいという意見もあった。しかし新しい出会いについては、篠山鳳鳴高校にも他市から集まって来られて、新たな人間関係は作れると思う。クラブ活動の話も出ていたが、逆に軟式野球部があるからということで、丹波市の子どもが篠山鳳鳴高校を選ぶという話も実際ある。良くない話ばかり聞こえてくるが、今回の中高連携事業で、教育長が学校訪問された時の動画も拝見して、それぞれの高校の特色がよくわかり、魅力が伝わってきた。やはり、学校のイメージは大切で、ロコミも大事である。高校の紹介動画を観て、この学校おもしろそうだよという話を広げていけばと率直に思った。私自身、篠山鳳鳴高校についてはぼんやりとしたイメージしかなく、また実際に通われている方の話では、あまり良いようには言われないが、最近、新聞でも三高校についてよく取り上げられていただいております、記事を読むことで市内の高校の良さが更にわかり、どんどん認識が変わった。</p> <p>こういう方が増えると良いなと思う。どんな動画なのか。</p> <p>各3高校の生徒さんが作られた動画である。</p> <p>その動画はまだ観られるか。</p> <p>今言われた動画は、6月の中学校訪問の時に保護者向けに発信したYouTube動画のことである。QRコードを付けて案内をしたので、保護者は観てくださっていると思う。今、各高校で独自のPR動画を作成され、それは市教育委員会ホームページにもリンクを貼っている。その動画を中学生が観られるように、市長日記にも掲載するとか。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>市長日記に掲載しても保護者が観てくれるかわからないが、「教育長の今日行くじょう」にも掲載するとか、色々な方法でやってみよう。まず市ホームページに掲載していく。</p>
<p>山本委員</p>	<p>山本委員の発言のなかで少し気になるが、篠山鳳鳴高校の生徒があまり学校がおもしろくないみたいなことを言われているのか。</p> <p>本人ではなく、親がそのように話していた。保護者の方はパツとしないと言われるが、私自身、篠山鳳鳴高校について、いじめがないとか落ち着いている生徒が多いと市の広報紙や高校の学校長からの紹介で知り、これがパツとしないと思わせることなのかもしれないが、その裏を返せば、落ち着いた環境の中で勉強ができるということなので、良い学校であると思った。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>篠山鳳鳴高校の生徒は、真面目で、温かくて、素朴で素直な印象である。なんか過小評価されているように思うが、最近では軟式野球部は県大会優勝という素晴らしいこともあった。</p>
<p>西田委員</p>	<p>定員割れには、少子化や学区変更等いろいろな要素がある。魅力ある学</p>

	<p>校とは何だろうといろいろ考えるが、私は駅周辺に住んでいるので、周囲の感覚は全然違うと感じている。市長には申し訳ないが、地域の学校に進学しなければならないという意識はないと言うと極端だが、私たち世代には良い学校は篠山鳳鳴高校という意識があるが、今の保護者世代には、JRを利用した通学が便利なので子どもの意向に沿うという感じで、近所の子どもも三田方面への進学が増えてしまっている。それはもう仕方ないと思う。気になるのは、篠山鳳鳴高校の良さがPR不足だから見えてこないという言い方をされるが、本当にそうなのか。ある中学校進路担当に聞くと、かつて設置されていた理数コースというのは、学力をつけるためにそのコースに行くというわかりやすさがあった。今の総合科学は弱いのではということも聞いた。それから、今、小学校と中学校は連携して、学力を高めるためにどうしたらいいのか交流して頑張っている。それを中学校と高校でしている地域があるというのを聞くと、果たして市内中学校と篠山鳳鳴高校がそういうことができているのかと考える。連携や交流があり、学校の雰囲気良くなれば進路先として選ばれる。高校選択には、学力、部活動、校舎が新しいとか古い、制服などいろんな要素があるが、今、子どもは意外とそのような中でも安易な要素で進学先を決めてしまっている場合があるので、それは学校や親が助言をしないといけない。教育に携わる者として言えるのは、魅力ある学校になるにはやはり学力をどうつけていくか、どんな特色ある学校にするのかというのが今一重要だと感じることである。</p>
酒井市長	<p>今年、教育長はずっと中学校教員と高校教員が連携するように伝えてきている。</p>
丹後教育長	<p>してきたが不十分な面もあった。管理職や進路指導など一部教員としか連携できていないので、もっと幅広く、授業のやりとりも含めて交流ができればいいと思う。</p>
西田委員	<p>高校の授業がどういう様子かわからないが、授業改善など地道なことをしていけないといけないと考える。</p>
酒井市長	<p>それは来年度に向けてじっくりしていけばいいと思う。本市が中学校と高校の連携を今年度から始めたということ自体十分伝わっていないのかもしれない。</p>
西田委員	<p>篠山鳳鳴高校ではない高校に進学した人にその学校を選んだ理由を聞くと、こういうところが好きだったからとはっきりとその学校の魅力を言う。篠山鳳鳴高校にそういうアピールするものがあればと思う。市民が憧れるような高校であって欲しいと思う。</p>
酒井市長	<p>良いと言われる高校教職員が特定の学校に集まったりということはあるのか。</p>
丹後教育長	<p>それはない。人事異動による配置である。私が、子どもたちに伝えてきているのは、志望校に入学したからといって充実した高校生活が自動的に</p>

	<p>待っているわけではない。校舎が綺麗だから良い高校生活を送れるではなくて、自分が主体的にどういう高校生活を送るか、自分自身にかかっていると伝えている。それは保護者の方にも伝えたい。</p>
酒井市長	<p>市内高校への通学がしやすくなるということを、市は東部地域の人にお知らせをしなければいけない。高校の先生はなかなかそういうところまで考えられないので、市から聞き取りをするしかないと思う。</p>
丹後教育長	<p>市長が言われるように、まずは次の春が大事である。極端に悪かった今年のこの流れを止めなければならない。逆に流れが良くなってきたら、部活動も元気が出てそれが魅力になる。</p>
酒井市長	<p>中学校の先輩が篠山鳳鳴高校に行っているから行こうとか、友達が行けば行こうなど、子どもたちが一体となると少し流れが変わる。</p>
垣内委員	<p>西田委員が言われるとおり、私も、まず高校で学力等しっかりしたものを作るというのは大前提だと思う。ただ、山脇先生にヒアリングをしていた中で出てきた、「何となく」というイメージがあるというのが気になる。その解消は、学力が上がるとそのイメージが解消されるかもしれないが、ある意味イメージ戦略は大事かなと思う。形が先にできて、中身がついてくることもあり得るかなとも思う。正論ではないかもしれないが、イメージ戦略というのは大事かなと思う。今まだでき上がっていない、例えば STEAM 教育に力を入れるというのであれば、まだ STEAM 教育の中身は固まってはいないが、これから力入れていくという意思表示をしたり、できていないことをこれからこうしていきたいということを伝える。嘘を言うのではなく目標を言う。いかにも楽しそうという PR は今すぐにでもできる。SNS の話が出ていたが、マーケティングを重視する。YouTube に上げているのだったら登録者数を意識し、どこのブログにリンクしてもらったら爆発的に見てもらえるのか、検索エンジンで引っかかるように考えるとか、もっとフォロワー増やすにはどうすればいいか。この戦略は高校の本質とは全く違うが必要なことかと思う。狡猾な戦略も事によると必要になる。</p>
酒井市長 西田委員	<p>市では難しい面もある。</p> <p>戦略合わせである。篠山東雲高校にしても、篠山産業高校にしてもいろんな発信をされていることが聞こえてくるが、篠山鳳鳴高校は弱いような気がする。丹南分校と東雲分校の存続云々の時、やはり地域密着で頑張ってきた東雲分校が篠山東雲高校として残ったように、今具体はないが何かしら篠山鳳鳴高校にもそういう手だてがないのかなと思う。</p>
酒井市長 西田委員 酒井市長	<p>市民の多くは、これは深刻な問題であると思っている。</p> <p>深刻な状況であるということももっと周知していったほうがいい。</p> <p>だから、今年の市広報紙にも意図的に 3 高校取り上げるようにした。丹波新聞にも連載で市内高校を記事にしてもらっている。</p>
山本委員	<p>垣内委員が言われたように、私自身も高校の売りがあれば選びやすいと</p>

<p>酒井市長</p>	<p>思う。私は篠山鳳鳴高校が「藩校」ということにとっても惹かれた。歴史は、新設校は得ることができないことで、「藩校」は日本に少なく、新旧織り交ぜたようなイメージ戦略ができれば、歴史好きな人が興味を持ってくれるかもしれないと思った。</p> <p>篠山鳳鳴高校の先生たちにも生まれ変わろうという動きはかなりあると思う。甲子園に出場させようという動きもあったりする。市民が危機感を持ち、いろいろなことを提案していただくようにもなった。軟式野球部や高校生の姿を見ていると、元気で、素直で、みんなで勉強を教え合おう雰囲気がある。篠山鳳鳴高校は全国的に間違いなく今でも通用する高校である。そういうメリットをわかってもらっていないのではないか。私は、中学校の学校訪問で意図的に話しているが、市内3高校に行かれたら、まちづくりに対する若い皆さんの意見を私は聞いているし伝えている。市外高校に通って丹波篠山市のまちづくりを言うのは少し違うと思う。今まで小学校、中学校で一生懸命ふるさと教育を受けてふるさとの良さを学び、さらに高校で伸ばしてもらうことも大事だと思う。西羅次長は、もう一度、中学校の先生方や塾の先生等に、この広報紙を持って行くなり、LINEで周知するなど、いろんな方法でPRをして、教育委員会全体で取り組んでほしい。</p>
<p>稲山部長</p>	<p>市内で学習塾を経営されているAさんからお話を聞かせていただいたことを追加で報告をする。</p> <p>篠山鳳鳴高校は決して進学率も学校の雰囲気も悪くない。高校が十分アピールが出来ていない。それから、三田市内の高校、具体的には祥雲館高校は、学校ポスターを作成して塾へ持ち込み、掲示してほしいというPR活動をされている。篠山鳳鳴高校はこの活動をされていないようなので、そういう活動もあってもいいと聞かせていただいた。</p> <p>もう一つ、Aさんも篠山鳳鳴高校校長も言われたのが、中高の連携というのは今も市でやっているが、「小中高連携」というのをぜひともやってほしいということであった。例えば、高校生が小学校へ自分たちがしている部活動はこんな様子であるとか、将来市内高校に入学したらこんな活動や体験ができる、例えば軟式野球部に入って頑張ろうなどを中学生になってから子どもたちに伝えるのではなく、小学生の頃から伝えて意識づけする取組もやってほしいということであった。</p> <p>それから、今危機的な状況だと思うので、地元の高校へ行こうという一緒に盛り上げる組織のようなものをつくってもらえたらという提案もいただいた。</p>
<p>小林部長</p>	<p>私も卒業生で、サッカーをしたかったので篠山鳳鳴高校を選んだ。今篠山鳳鳴高校サッカー部は人数が少なく、十分活動ができていないようなことも聞くが、多くの人が入部して活発になると全てが良くなっていくんだろという思いがある。篠山鳳鳴高校は、「藩校」の話も出たが、今までは</p>

酒井市長	<p>生徒が来て当然というところがあったのかなと思う。今まではそれでよかったのかもしれないが、今この状況で見直しあらためないといけない。一生懸命 PR をして、人を集めて、良い学校であるということが広まっていけばいいと思っている。PR も含めできることに取り組めたらと思う。</p> <p>確かに新設高校であれば入学してもらうために頑張るし、まして私立なら尚更である。篠山鳳鳴高校にはそういうところがなかったのかもしれない。</p>
丹後教育長	篠山鳳鳴高校は1クラス減らしたのか。
酒井市長	柏原高校が5クラス、篠山鳳鳴高校は4クラスである。
丹後教育長	定員を減らしたことは良い結果になったのか。
酒井市長	それは県が決定することであるのでわからない。
丹後教育長	学力の差があるから定員を減らしたのではなかったか。
酒井次長	そういうことで定員を減らしたということではないと思う。
酒井市長	<p>定員は卒業生の数から決定されると思う。今、市内中学生約 300 人が卒業するが、定員が 360 人である。全員が市内高校に進学しても定員の 100% にいかない卒業生数である。</p> <p>どこかの高校で定員を減らさざるを得ないというのがわかる。</p>
西羅次長	<p>先ほど、ポスターを塾に掲示するという話が出たが、高校は作成されていないのか。</p> <p>篠山東雲高校は作り始めた。篠山鳳鳴高校はチラシを作っている。</p>
酒井市長	<p>3 高校合わせてポスター掲示をしたいという話は早くからあったが進んでいない。篠山口駅で掲示する場所もまちづくり部と調整もできている。</p> <p>迅速に対応できるのは、市で 3 高校合同のポスターを作成すればいいのか。いろんな方法で進めていくしかない。</p>
西羅次長	私は中学校に順番に行って 3 高校の PR をしているが、高校が中学校に行っているのかというはまだ回数が少ないようだ。市教育委員会が行くよりも高校が行く方がいいのではと思うが。
酒井市長	<p>高校にもっと PR をしに中学校に行くようにとはなかなか言えない。だから私たち市が市内高校を盛り上げましようとしか言えない。ポスターも含めてあらゆる PR をする、それしかない。</p> <p>長期的には、小中高の連携で、この高校に行けば何ができるのかという PR を充実をしていく。</p> <p>市広報紙の記事を見ると、篠山産業高校校卒業生皆さんは、私はこういう技術を学んだと誇りを持っている。実際産業高校卒業生は、企業から引っ張りだこで求人倍率 3 倍以上ある。地元企業より有名企業に就職してしまうという別の悩みも出てきている。</p> <p>それから篠山東雲高校は、独立校となった時の特性は少し下がってきており、当時の勢いが少し無くなってきているのは市として心配している。篠山産業高校にも「農と食科」という農業科があり、篠山東雲高校と重な</p>



	<p>ってしまっているというのが気になる。</p> <p>来年度はもっと長期的な視野から、今日提案のあった「小中高の連携」、魅力ある高校をつくってPRをする、またそういう組織も必要ではないか、こういった意見を参考にまた、教育委員会で調整してほしい。また総合教育会議も開催できればと思う。</p> <p>当面は、来年春定員割れを食い止めたいということから、できることは限られているが、市広報紙、市ホームページ、LINE、ポスターを含めて、とにかくPRをしていく。決して篠山鳳鳴高校は落ち込んでいるわけではなくて、実態がきちんと伝わっていない、部活も勉強も頑張ってるということを知ってもらう。</p> <p>それから当面、通学支援で、篠山口駅から多紀地区や今田地区からの通学支援をできるだけ早期に市も調整するので、西羅次長も検討をしていく。まだ議会の議決がないから決定は言えないが、こういったことを検討するというのを、三者懇談が始まるまでに提案して、担任の先生にお伝えして、保護者の方に伝えていただくようにしていくということで進める。</p> <p>最後、教育長から一言お願いする。</p>
丹後教育長	<p>高校が主体で取り組むところも多いので、なかなか難しい部分もあるが、市ができることをやっていくということで、今いろんな意見も出たところである。過去には厳しい状況になった高校もたくさんある。柏原高校にもそういう時期があり、必死に取り組まれ盛り返したということもある。篠山鳳鳴高校は決して劣っているわけではないので、十分盛り上げていけると確信している。これからもいろんな知恵を出し合いながら、市ができることを中心に応援し、市でも取り組んでいくので協力をお願いする。</p>
酒井市長	<p>以上で、令和3年度第1回丹波篠山市総合教育会議を終了する。</p>